るであろうかという想像が広がった。あるいはプロトプラストを調製して，融合産物を得るという手段もあるかもしれない。中間的で，どっちつかずのものが得られるかもしれないが，ハクランのように新しい形質があるものもあるかもしれないと思うのである。筆者はその現状について詳らかには知らないが，園芸関係者の間ではそのようなものが作られているかもしれないと思い，もしも，ご存知の方があれば教えていただきたいと述べて，本稿を閉じる。

文献

Franke, G. *et al.*:　Früchte der Erde, Urania-Verlag 1976)

統計データから

我が国の食料供給カロリーの国別構成

我が国の 2022 年の食料自給率（カロリーベース）は 38％である。1961 年には 78％あったものが，米の消費の減少や，畜産物や油脂類の消費が増大する等の食生活の変化により，長期的に低下傾向が続き，2000 年代に入ってからは概ね 40％を切った横ばい傾向で推移している。2020 年に策定した「食料・農業・農村基本計画」の 2030 年度 45％の目標到達は難しい状況にある。

我が国の供給カロリーのうち，62％は海外から輸入する農林水産物・食品に頼っている現状から，農林水産省では，この海外からの供給分をより詳細に分析するため，各国・地域からの輸入量で按分して試算したものが表 - 1 である。

供給カロリーの多い順に, 米国 22%, 豪州 11%, カナダ 9 %, ブラジル 5 %となり，国産とこれら主要 4 ヶ国分とを合わせると，大部分（84％）を占める。これら 4 ヶ国はいずれも国土面積が広大で，とうもろこし，小麦，大豆，なたね等の穀物や油糧種子，飼料作物といった土地利用作物とそれを活かした畜産物が主な輸入品目となっている。（K. O）

表 -1　我が国の食料供給における供給カロリーの国別・品目別構成（試算）：2022 年度　（熱量の単位は kcal）

国　名	品　目	熱量	%	国　名	品　目	熱量	%	国　名	品　目	熱量	%
国　産	合計	850	37.6	豪　州	合計	251	11.1	中国（続き）	大豆油かす	4	0.2
	米	474	21.0		砂糖類	104	4.6		鶏肉	4	0.2
	砂糖類	63	2.8		小麦	61	2.7		飼料作物	2	0.1
	野菜	50	2.2		なたね	47	2.1	タ　イ	合計	31	1.4
	小麦	47	2.1		乳製品	13	0.6		砂糖類	17	0.7
	牛乳・乳製品	44	1.9		牛肉	9	0.4		鶏肉	9	0.4
	魚介類	39	1.7		飼料作物	4	0.2	インドネシア	合計	25	1.1
	いも類・でん粉	38	1.7	カナダ	合計	193	8.5		パーム油	21	0.9
	果実	20	0.9		小麦	89	3.9	NZ	合計	20	0.9
	大豆	18	0.8		なたね	69	3.0		乳製品	16	0.7
	鶏卵	8	0.4		大豆	12	0.5	アルゼンチン	合計	20	0.9
	植物油脂	8	0.4		豚肉	9	0.4		とうもろこし	14	0.6
	牛肉	6	0.3	ブラジル	合計	105	4.6	南アフリカ	合計	18	0.8
	鶏肉	5	0.2		とうもろこし	58	2.6		とうもろこし	16	0.7
	豚肉	5	0.2		大豆	24	1.0	フィリピン	合計	17	0.7
	海藻類	4	0.2		鶏肉	8	0.3		果実	12	0.5
米　国	合計	497	22.0		大豆油かす	7	0.3		やし油	4	0.2
	とうもろこし	205	9.1	マレーシア	合計	79	3.5	メキシコ	合計	9	0.4
	大豆	102	4.5		パーム油	75	3.3		豚肉	5	0.2
	小麦	101	4.5	EU	合計	57	2.5		果実	2	0.1
	飼料作物	12	0.5		乳製品	24	1.1	チリ	合計	8	0.3
	豚肉	9	0.4		豚肉	14	0.6		魚介類	4	0.2
	牛肉	9	0.4		オリーブ油	8	0.4	ロシア	合計	5	0.2
	乳製品	9	0.4		ばれいしょ	3	0.1		魚介類	3	0.1
	ばれいしょ	7	0.3		果実	2	0.1	ノルウェー	合計	4	0.2
	魚介類	6	0.3	中国	合計	41	1.8		魚介類	4	0.2
	果実	3	0.1		野菜	12	0.5				
	大豆油かす	3	0.1		果実	10	0.4				
	野菜	2	0.1		魚介類	4	0.2	計		2,260	100.0